

21 サンカノゴイ

(ペリカン目)

兵庫県ランク:A

Botaurus stellaris

繁殖個体群:無 越冬個体群:A 通過個体群:調

環境省ランク:EN(絶滅危惧 I B類)

種の概要

北海道では夏鳥、本州以南では冬鳥とされるが、茨城県、千葉県、滋賀県などで繁殖記録がある。繁殖地周辺には周年生息するが、滋賀県では近年繁殖記録が途絶えている。兵庫県では主に10-翌3月に記録がある。広いヨシ原に生息し、主に早朝や夜間に魚類やカエル類などの小動物を捕食する。国内における生息数は極めて少ない。



写真提供:但馬野鳥の会

国内分布

北海道、南千島、本州北・中部、本州南西部、佐渡、舩倉島、隠岐、四国、九州、壱岐、対馬、筑前沖ノ島、伊豆諸島、小笠原群島、トカラ列島、奄美大島、琉球諸島、大東諸島

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

(姫路市)、(伊丹市)、豊岡市、(加古川市)、(赤穂市)、(南あわじ市)、(加東市)



主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の 希少性	
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ね特殊休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

CランクからAランクに変更。
かつては瀬戸内の海岸や河口、池沼の広大なヨシ原に生息していた。多くは稀な冬鳥と考えられるが、1967年に加古川市尾上で、1976年には姫路市大塩で繁殖期に複数個体が観察されている。開発で生息環境が消滅するとともに姿を消し、現在では円山川周辺のヨシ原で稀に観察される程度である。

保護上の留意点

本種の生息には広大なヨシ原や湿地を必要とするため、それらの環境の保全が必要。また、減反により休耕となった田圃も水を張ることによって本種の好む湿地環境を創出することが可能である。